

第39回 法人会全国大会(群馬大会)が開催されました。

日時：令和5年10月18日(水)

場所：高崎芸術劇場

報告：会長 池尻英昭

《第1部 記念講演》

秋晴れの爽やかな一日をウエルカムコンサートに迎えられながら大変立派な高崎芸術劇場へ足を踏み入れました。(高崎駅から直通の通路を歩いて約10分という好立地)

記念講演では、アップル米国本社副社長を務められスティーブ・ジョブズ氏の側近、のちに日本通信に入社という経歴の持ち主。地元群馬県出身の福田尚久氏の講演でした。

スティーブ・ジョブズ氏とは立ち上げから一緒に仕事をした仲間だそうで、お話の中で私が一番「！」と思ったのが、「会社の決定は一人で決める。」です。日本では、みんなの総意とか話し合って多数決とかが常識ですが、ジョブズ氏は「みんなが良いと思うことは既にみんなが知っている。」「誰か一人が言ったことでコレ！っと思えばトップが決める。」責任はトップにあるという事ですね。そのための会社の雰囲気作り(ものが言い易い)も良かったに違いないと思います。ジョブズ氏の会社経営も大きな波があったようですが、彼の成功は誰もが知るところです。前橋工科大学理事長という教育の現場で学生たちを大きく育ててもらいたいと願っています。

《第2部 大会式典》

式典では、会員増強表彰・研修率向上表彰・福利厚生制度推進表彰に各県連が表彰された後、令和6年度税制改正に関する提言が発表された。続いて青年部会による租税教育活動について報告がありました。

令和6年度 全国大会は、10月3日(木)に鹿児島県で開催されます。砂蒸し温泉で温めた後、“しろくま”食べてリフレッシュできそうです。

大会宣言

我が国の社会経済活動に大打撃を与えたコロナ禍は、ほぼ収束し急激な物価上昇も一時に比べ落ち着きを取り戻しつつある。

こうした中、政府が打ち出した少子化対策や防衛力の抜本強化については、財源の具体的な内容が定まっておらず安定性を欠いていると言わざるを得ない。加えてコロナ禍でさらに積み上がった国債残高は先進国でも突出しており返済計画の策定が重要な課題である。

歳出だけを先行させ財源論が置き去りになったままでは、財政規律の毀損が決定的となりかねない。まずは、2025年度の基礎的財政収支の黒字化目標を確実に達成し、その後の財政健全化についても並行して議論を開始すべきである。

今月から導入されたインボイス制度は、事業者の事務負担増や適格請求書発行事業者と免税事業者との取引に変化が生じるといった懸念がある。政府は、国民や事業者への影響を検証し、問題があれば制度の是非を含めて見直す必要がある。

地域経済や雇用の担い手である中小企業には、コロナ禍による打撃から回復していないケースも少なくない。実効性のある税財政上の支援が必要であり、法人会は「中小企業の活性化に資する税制」「事業承継税制の抜本的改革」等を中心とする「税制改正に関する提言」の実現を強く求めるものである。